

対空間のコホモロジーにも無論、環構造が導入できる。

Remark 0.0.1

位相空間対 (X, A) に対し、 $S(X) \xrightarrow{j^\sharp} S(X, A) \longrightarrow 0$ が完全なので、 $0 \longrightarrow S^\sharp(X, A) \xrightarrow{j^\sharp} S^\sharp(X)$ が完全となる。これより、 $S^\sharp(X, A)$ は $S^\sharp(X)$ の部分群と見なせる。

Lemma 0.0.2

位相空間 X の部分空間 A, B に対し、 $u \in S_n(X, A)$, $v \in S_m(X, B)$ とすると、

$$u \cup v \in (S(X)/S(A) + S(B))_{n+m}^\sharp$$

proof) $\sigma \in K_{n+m}(A) \cup K_{n+m}(B)$ とすると、

$$\sigma \circ F_n \in K_n(A) \quad \text{または、} \quad \sigma \circ L_m \in K_m(B)$$

である。よって、 $\sigma \circ F_n = 0$ in $S(X, A)$ または、 $\sigma \circ L_m = 0$ in $S(Y, B)$ より、

$$\langle u \cup v, \sigma \rangle = \langle u, \sigma \circ F_n \rangle + \langle v, \sigma \circ L_m \rangle = 0$$

$\therefore u \cup v \in (S(X)/S(A) + S(B))_{n+m}^\sharp$

Definition 0.0.3

位相空間 X の部分空間 A, B に対し、 $\{A, B\}$ が X の exisive pair ならば、

$u \in S_n(X, A)$, $v \in S_m(X, B)$ に対し、 $u \cup v \in S_{n+m}(X, A \cup B)$ が定義できる。また、 $[u] \in H^*(X, A)$, $[v] \in H^*(X, B)$ に対し、 $[u] \cup [v] \in H^*(X, A \cup B)$ が、 $[u] \cup [v] = [u \cup v]$ で定義できる。

このカップ積について次の性質が成り立つのは、位相空間のコホモロジーにおけるカップ積における証明と同様である。

Proposition 0.0.4

位相空間 X の部分空間 A, B に対し、 $\{A, B\}$ が X の exisive pair ならば、次数 0 の準同型

$$\cup : H^*(X, A) \otimes H^*(X, B) \longrightarrow H^*(X, A \cup B)$$

が、 $\cup(\alpha \otimes \beta) = \alpha \cup \beta$ により定義できる。

Proposition 0.0.5

位相空間 X の部分空間 A, B, C に対し、

$$\{A, B\}, \{B, C\}, \{A \cup B, C\}, \{A, B \cup C\}$$

はそれぞれ exisive pair であるとする。このとき、 $\alpha \in H^*(X, A)$, $\beta \in H^*(X, B)$, $\gamma \in H^*(X, C)$ に対し、

$$(\alpha \cup \beta) \cup \gamma = \alpha \cup (\beta \cup \gamma) \quad \text{in } H^*(X, A \cup B \cup C)$$

すなわち、次が可換となる。

$$\begin{array}{ccc} H^*(X, A) \otimes H^*(X, B) \otimes H^*(X, C) & \xrightarrow{\cup \otimes 1} & H^*(X, A \cup B) \otimes H^*(X, C) \\ \downarrow 1 \otimes \cup & & \downarrow \cup \\ H^*(X, A) \otimes H^*(X, B \cup C) & \xrightarrow{\cup} & H^*(A \cup B \cup C) \end{array}$$

Proposition 0.0.6

位相空間 X の部分空間 A, B に対し、 $\{A, B\}$ が X の exisive pair ならば、

$\alpha \in H^*(X, A)$, $\beta \in H^*(X, B)$ に対し、 $H^*(X, A \cup B)$ において、

$$\alpha \cup \beta = (-1)^{pq} \beta \cup \alpha$$

Proposition 0.0.7

位相空間 X の部分空間 A に対し、

$$\alpha \in H^*(X, A), 1 \in H^0(X) \text{ において、} \alpha \cup 1 = 1 \cup \alpha = \alpha$$

Remmark 0.0.8

上記の命題から、位相空間対 (X, A) に対し、 $H^*(X, A)$ はカップ積により、単位元を持つ可換な次数付き環になることがわかる。これを (X, A) のコホモロジー環と呼ぶ。

Proposition 0.0.9

位相空間 X の部分空間 A, B 、 Y の部分空間 C, D に対し、 $\{A, B\}$ 、 $\{C, D\}$ が exisive pair であり、 $f : X \rightarrow Y$ が、 $f(A) \subset C$ 、 $f(B) \subset D$ を満たすならば、

$$\alpha \in H^*(Y, C), \beta \in H^*(Y, D)$$

に対し、 $f^*(\alpha \cup \beta) = f^*(\alpha) \cup f^*(\beta)$ 。つまり、次が可換。

$$\begin{array}{ccc} H^*(Y, C) \otimes H^*(Y, D) & \xrightarrow{\cup} & H^*(Y, C \cup D) \\ \downarrow f^* \otimes f^* & & \downarrow f^* \\ H^*(X, A) \otimes H^*(X, B) & \xrightarrow{\cup} & H^*(X, A \cup B) \end{array}$$

Remmark 0.0.10

位相空間対 (X, A) 、 (Y, B) で、 $f : (X, A) \rightarrow (Y, B)$ に対し、

$$f^* : H^*(Y, B) \rightarrow H^*(X, A)$$

は次数付き環の準同型である。

Proposition 0.0.11

X の部分集合からなる空間対 (X_1, A_1) 、 (X_2, A_2) を取り、 $A \subset X_1 \cup X_2$ とする。このとき、

$$A'_1 = X_1 \cap (A \cup A_1), A'_2 = X_2 \cap (A \cup A_2)$$

とおき、

$$\{X_1, X_2\}, \{A_1, A_2\}, \{A'_1, A'_2\}, \{A_1 \cap A_2, A\}, \{A_1 \cup A_2, A\}$$

が、exisive pair であるとき、 $\beta \in H^m(X_1 \cup X_2, A)$ に対し、次の図式が可換となる。

$$\begin{array}{ccc} H^n(X_1 \cap X_2, A_1 \cap A_2) & \xrightarrow{\delta^*} & H^{n+1}(X_1 \cup X_2, A_1 \cup A_2) \\ \downarrow \cup k^*(\beta) & & \downarrow \cup \beta \\ H^{n+m}(X_1 \cap X_2, A'_1 \cap A'_2) & \xrightarrow{\delta^*} & H^{n+m+1}(X_1 \cup X_2, A'_1 \cup A'_2) \end{array}$$

ただし、 δ^* はマイヤー・ヴィートリス完全列での連結準同型。

$$k : (X_1 \cap X_2, X_1 \cap X_2 \cap A) \longrightarrow (X_1 \cup X_2, A)$$

は inclusion。また、 $\cup k^*(\beta), \cup \beta$ を、それぞれ、 $k^*(\beta) \cup, (-1)^m \beta \cup$ に変えても成立する。

Proposition 0.0.12

$\{A, B\}$ が X の exisive pair とし、 $\{A \times X, X \times B\}$ が $X \times X$ の exisive pair ならば、 $\alpha \in H^*(X, A), \beta \in H^*(X, B)$ に対し、

$$d : (X, A \cup B) \longrightarrow (X \times X, A \times X \cup X \times B)$$

を対角写像とすると、

$$\alpha \cup \beta = d^*(\alpha \times \beta)$$

つまり、次の図式が可換

$$\begin{array}{ccc} H^*(X, A) \otimes H^*(X, B) & \xrightarrow{=} & H^*(X, A) \otimes H^*(Y, B) \\ \downarrow \times & & \downarrow \cup \\ H^*((X, A) \times (X, B)) & \xrightarrow{d^*} & H^*(X, A \cup B) \end{array}$$

Proposition 0.0.13

位相空間対 $(X, A), (Y, B)$ に対し、 $\{A \times Y, X \times B\}$ が $X \times Y$ の exisive pair とするとき、

$$p_1 : (X, A) \times Y \longrightarrow (X, A), \quad p_2 : X \times (Y, B) \longrightarrow (Y, B)$$

を projection とする時、 $\alpha \in H^*(X, A), \beta \in H^*(Y, B)$ に対し、

$$\alpha \times \beta = p_1^*(\alpha) \cup p_2^*(\beta)$$

つまり、次の図式が可換

$$\begin{array}{ccc} H^*(X, A) \otimes H^*(Y, B) & \xrightarrow{=} & H^*(X, A) \otimes H^*(Y, B) \\ \downarrow p_1^* \otimes p_2^* & & \downarrow \times \\ H^*(X \times Y, A \times Y) \otimes H^*(X \times Y, X \times B) & \xrightarrow{\cup} & H^*((X, A) \times (Y, B)) \end{array}$$

Proposition 0.0.14

位相空間対 (X, A_1) , (X, A_2) , (Y, B_1) , (Y, B_2) に対し、

$$\alpha_1 \in H^p(X, A_1), \alpha_2 \in H^q(X, A_2), \beta_1 \in H^r(Y, B_1), \beta_2 \in H^s(Y, B_2)$$

とすると、適当な切除性の仮定の下、 $H^*((X, A_1 \cup A_2) \times (Y, B_1 \cup B_2))$ において、

$$(\alpha_1 \times \beta_1) \cup (\alpha_2 \cup \beta_2) = (-1)^{qr} (\alpha_1 \cup \alpha_2) \times (\beta_1 \cup \beta_2)$$

Remmark 0.0.15

位相空間対 (X, A) , (Y, B) に対し、 $\{A \times Y, X \times B\}$ が $X \times Y$ の exisive pair とする。このとき、

$$\times : H^*(X, A) \otimes H^*(Y, B) \longrightarrow H^*((X, A) \times (Y, B))$$

は次数付き環の準同型である。

Remmark 0.0.16

位相空間対 (X, A) に対し、準同型

$$k_n : H^n(X, A) \longrightarrow H_n(X, A)^\sharp$$

が、 $k_n([u])[c] = \langle u, c \rangle$ により、定義できる。($[u] \in H^n(X, A)$, $[c] \in H_n(X, A)$)

Theorem 0.0.17 普遍係数定理

位相空間対 (X, A) に対し、 $H_{n-1}(X, A)$ が自由であれば、

$$k_n : H^n(X, A) \longrightarrow H_n(X, A)^\sharp$$

は同型である。

Proposition 0.0.18

位相空間対 (X, A) , (Y, B) に対し、 $\{A \times Y, X \times B\}$ が $X \times Y$ の exisive pair とする。このとき、 $\alpha \in H^*(X, A)$, $\beta \in H^*(Y, B)$, $a \in H_*(X, A)$, $b \in H_*(Y, B)$ に対し、

$$\langle \alpha \times \beta, a \times b \rangle = \langle \alpha, a \rangle \langle \beta, b \rangle$$

続いてキャップ積を位相空間対に拡張する。

Lemma 0.0.19

位相空間 X に対し、 A, B をその部分空間とする。 $u \in S^m(X, B)$, $c \in S_{n+m}(A) + S_{n+m}(B)$ に対し、 $u \cap c \in S_n(A)$

proof) $\sigma \in K_{n+m}(A)$ に対して、 $\sigma \circ L_n \in K_n(A)$ であり、 $\sigma \in K_{n+m}(B)$ に対しては、 $u \in S^m(X, B)$ であるが少しこの意味を考えてみる。 $S^m(X, B)$ は $S^m(X)$ の部分群と見なしたわけだが、それは単射準同型、

$$p^\sharp : S^m(X, B) \longrightarrow S^m(X)$$

で見なしたわけである。ただし、 p は projection である。つまり、 $u = p^\sharp(u)$ で同一視したわけだ。 $\sigma \circ F_m \in K_m(B)$ であるが、

$$\langle p^\sharp(u), \sigma \circ F_m \rangle = \langle u, p(\sigma \circ F_m) \rangle = \langle u, 0 \rangle = 0$$

これにより、 $u \cap c \in S_n(A)$

これにより、次のように位相空間対でのキャップ積が定義できる。定義の手法は位相空間の時とまったく同じなので、疑問に思ったならばそちらを見返してみると良い。

Definition 0.0.20

位相空間 X に対し、 $\{A, B\}$ が X の exisive pair とすると、Lemma 0.0.19 より、

$$\cap : S^\sharp(X, B) \otimes S(X)/S(A) + S(B) \longrightarrow S(X, A)$$

が、カップ積の誘導から定義できる。さらに、

$$\cap : H^*(X, B) \otimes H_*(S(X)/S(A) + S(B)) \longrightarrow H_*(X, A)$$

が定義される。ここで、 $\{A, B\}$ が X の exisive pair ならば、

$$H_*(S(X)/S(A) + S(B)) \cong H_*(X, A \cup B)$$

であるため、

$$\cap : H^*(X, B) \otimes H_*(X, A \cup B) \longrightarrow H_*(X, A)$$

となり、 $\beta \in H^m(X, B)$, $\alpha \in H_{n+m}(X, A \cup B)$ に対し、

$$\cap(\beta \otimes \alpha) = \beta \cap \alpha$$

と書き、 β と α のキャップ積と呼ぶ。

以下に位相空間対でのキャップ積の性質を綴る。証明は位相空間の時を参照あれ。

Proposition 0.0.21

位相空間 X の部分空間、 A_1 , A_2 , A_3 に対し、 $A = A_1 \cup A_2 \cup A_3$ とおく。

$$\{A_1, A_2\} , \{A_2, A_3\} , \{A_1 \cup A_2, A_3\} , \{A_1, A_2 \cup A_3\}$$

が、exisive pair とする時、 $\beta_2 \in H^*(X, A_2)$, $\beta_3 \in H^*(X, A_3)$, $\alpha \in H_*(X, A)$ に対し、

$$\beta_2 \cap (\beta_3 \cap \alpha) = (\beta_2 \cup \beta_3) \cap \alpha$$

つまり、次の図式が可換。

$$\begin{array}{ccc} H^*(X, A_2) \otimes H^*(X, A_3) \otimes H_*(X, A) & \xrightarrow{\cup \otimes 1} & H^*(X, A_2 \cup A_3) \otimes H_*(X, A) \\ \downarrow 1 \otimes \cap & & \downarrow \cap \\ H^*(X, A_2) \otimes H_*(X, A_1 \cup A_2) & \xrightarrow{\cap} & H_*(X, A_1) \end{array}$$

Proposition 0.0.22

$1 \in H^0(X)$, $\alpha \in H_*(X, A)$ に対し、 $1 \cap \alpha = \alpha$

Proposition 0.0.23

位相空間 X, Y に対し、 $\{A_1, A_2\}$ は X の、 $\{B_1, B_2\}$ は Y のexisive pair とする。また、 $f : X \rightarrow Y$ が、 $f(A_1) \subset B_1$, $f(A_2) \subset B_2$ とする。このとき、 $\beta \in H^*(Y, B_2)$, $\alpha \in H_*(X, A_1 \cup A_2)$ に対し、

$$f_*(f^*(\beta) \cap \alpha) = \beta \cap f_*(\alpha)$$

つまり、次の図式が可換。

$$\begin{array}{ccc}
 H^*(Y, B_2) \otimes H_*(X, A_1 \cup A_2) & \xrightarrow{1 \otimes f_*} & H^*(Y, B_2) \otimes H_*(Y, B_1 \cup B_2) \\
 \downarrow f^* \otimes 1 & & \downarrow = \\
 H^*(X, A_2) \otimes H_*(X, A_1 \cup A_2) & & H^*(Y, B_2) \otimes H_*(Y, B_1 \cup B_2) \\
 \downarrow \cap & & \downarrow \cap \\
 H_*(X, A_1) & \xrightarrow{f_*} & H_*(Y, B_1)
 \end{array}$$

Proposition 0.0.24

$\beta \in H^n(X, A)$, $\alpha \in H_n(X, A)$, $\varepsilon_* : H_0(X) \rightarrow \mathbf{Z}$ に対し、

$$\varepsilon_*(\beta \cap \alpha) = \langle \beta, \alpha \rangle$$

Proposition 0.0.25

X の部分集合からなる空間対 (X_1, A_1) , (X_2, A_2) を取り、 $A \subset X_1 \cup X_2$ とする。
このとき、

$$A'_1 = X_1 \cap (A \cup A_1), \quad A'_2 = X_2 \cap (A \cup A_2)$$

とおき、

$$\{X_1, X_2\}, \{A_1, A_2\}, \{A'_1, A'_2\}, \{A'_1 \cup A'_2, A\}, \{A'_1 \cap A'_2, X_1 \cap X_2 \cap A\}$$

が、exisive pair であるとき、 $\beta \in H^m(X_1 \cup X_2, A)$ に対し、次の図式が可換となる。

$$\begin{array}{ccc}
 H_n(X_1 \cup X_2, A'_1 \cup A'_2) & \xrightarrow{\partial_*} & H_{n-1}(X_1 \cap X_2, A'_1 \cap A'_2) \\
 \downarrow \beta \cap & & \downarrow k^*(\beta) \cap \\
 H_{n-m}(X_1 \cup X_2, A_1 \cup A_2) & \xrightarrow{\partial_*} & H_{n-m-1}(X_1 \cap X_2, A_1 \cap A_2)
 \end{array}$$

ただし、 ∂_* はマイヤー・ヴィートリス完全列での連結準同型。そして、

$$k : (X_1 \cap X_2, X_1 \cap X_2 \cap A) \longrightarrow (X_1 \cup X_2, A)$$

は inclusion